

証明できなかった山下教授の御高説

2011年5月30日 10:07



雨樋の下にカウンターを置くとケタ違いに高い線量を示した。

(25日、飯舘村長泥)

山下教授は何の意図があって科学の常識とかけ離れた言説を撒き散らすのか。気象庁によれば台風 2 号から変化した熱帯性低気圧の影響で福島県は 30 日、強風と大雨に見舞われるものと予想されています。

強い風で福島原発一号機から排出される高濃度の放射性物質が飛散し、雨が大気中の放射性物質を吸い込んで地上に降り注ぎます。

大方の科学者はじめ世の良識ある人々は、過去のデータをもとに、福島県内の放射能汚染が進むことを心配しているのです。

ところが山下教授は逆です。今朝の NHK ニュースを見ていて「まだ悪夢の途中なのだろうか？」と何度も目をこすりました。

山下教授はこう言いました

- 「**放射性物質は福島第一原発から 20 キロ以上飛ばない**」
- 「**大雨に特別な対策を講じる必要はない**」

と
言い放ったのです。

一番最初の写真をご覧ください。

この写真は去る 25 日、**飯舘村長泥地区の雨樋下で計測した線量**です。ガイガーカウンターは「**462・1 μ Sv/h**」という眩暈がするような数値を記録しました。大気中の放射性物質を雨が吸い土壌で濃縮されるという、極あたり前の法則通りの結果です。

30 μ Sv/h を超えるとアラームが鳴るように設定したカウンターはけたたましい金属音をあげ続けました。

ここは福島第一原発から 30 キロの地点です。

「20 キロ以上は飛ばない。大雨に特別な対策を講じる必要はない」とする山下教授の御高説は、残念ながら証明できません。